



秋中だより

スローガン 未来は自分でデザインする

藤沢市立秋葉台中学校

校長 福田 まり

2026(令和8年)6月2日

2026年6月号

勝敗を超えた美しさ ～自分たちでデザインした、最高の物語～ 体育祭を終えて

新緑の風が吹き抜ける中、本年度の体育祭が無事に幕を閉じました。保護者の皆様、地域の皆様には、温かいご声援と多大なるご協力をいただき、心より感謝申し上げます。

今年の体育祭を迎えるにあたり、私は生徒たちに「フォローシップ(仲間を支える力)」と「プロセス・エコノミー(結果だけでなく、そこに至るプロセスに価値を置くこと)」という二つの話をしました。スローガンである「未来は自分でデザインする」を合言葉に、生徒たちが「どんな体育祭にしたいか」を自らに問いかけ、一步一步を進めていくことを期待したからです。その期待に対して、生徒たちは想像をはるかに超える素晴らしい姿を見せてくれました。グラウンドのあちこちに、自分たちの手で最高の体育祭を創り上げようとする「デザインの軌跡」が見られました。そして、それらすべてのプロセスが結実したのが、閉会式の成績発表の瞬間でした。

例年であれば、優勝の瞬間に歓声が爆発する場面です。しかし、今年の生徒たちの反応は違いました。勝ったブロックも、これまで共に全力を尽くし、葛藤を乗り越えてきた他ブロックの仲間を思いやり、静かに、そして厳かにその結果を受け止めたのです。そこには、相手への深いリスペクトと、「全力を尽くしたプロセスそのものに価値がある」という確信が満ちていました。勝敗という「結果」を超えて、仲間と共に創り上げてきた「物語」を全員が愛おしみ、称え合っているかのような、息をのむほどに美しい光景でした。

生徒たちは、嬉し涙や悔し涙を超えた、もっと大きな「集団としての成長」という最高の未来を、自分たちの手で見事にデザインしてくれました。

この体育祭で得た強さと優しさを胸に、生徒たちはこれからも自らの未来を切り拓いていきます。今後とも、彼らの歩みを温かく見守っていたければ幸いです。



小さな手と大きな手で育てるトマト～たんぽぽ保育園との心温まる畑の交流～

5月20日(水)、本校の5組の生徒たちが、学校近くの「たんぽぽ保育園」の年長さんたちと一緒にトマトの苗植えを行いました。このトマトの苗は、ケチャップメーカーの支援事業に応募していただいたものです。本校では数年前から、5組や科学部の生徒たちが校内の畑で大切に育ててきましたが、昨年度からは「幼保小中連携」の一環として、たんぽぽ保育園さんの畑をお借りして共同で育てる取り組みへと発展しています。(裏面へ)



保育園児に
植え方を教える生徒



(つづき)

当日は、中学生がすっかり頼もしい「お兄さん・お姉さん」の顔になり、園児の皆さんと優しく言葉を交わしながら交流する姿がとても微笑ましく、終始温かい雰囲気にもまれたひとときとなりました。保育園の先生からは、「中学生と交流した後の子どもたちは、心がとても満たされるようで、帰った後もいつも以上に落ち着いて元気に過ごせています」という嬉しいお言葉もいただきました。世代を超えた交流が、子どもたちの心に素晴らしい栄養をくれているようです。苗の成長とともに、子どもたちの絆もぐんぐん育っていくのが今から楽しみです。ご協力いただきましたたんぽぽ保育園の皆様、本当にありがとうございました。これからみんなで大切に育てていきましょう！

人生というキャンバスに、自分の色を ～国語の作文で見つけた、校長先生の胸を熱くした素敵な決意～

3年生の国語の授業で、胸が熱くなる素晴らしい出会いがありました。「気になる言葉」というテーマで書かれた、課題作文を読ませてもらった時のことです。私がこれまでのあいさつの中で皆さんに投げかけてきた「未来は自分でデザインする」というスローガンを、ひとりの生徒が自分自身の心に深く落とし込み、このように真っ直ぐな言葉で表現してくれていました。

『気になる言葉』3年 大友 さんの作文より

(※ご本人の許可を得て掲載させていただいております)

「校長先生が放った『未来は自分でデザインする』という言葉がずっと心に残っている。これまで僕は、未来とは勝手にやってくるものだと思い込んでいた。でも、自分の人生というキャンバスにどんな色を塗り、どんな形を描くかは自分次第なのだと気づかされた。誰かに決められた道ではなく、自分で道を作り変えていく。今日この瞬間からその未来に向けて、デザインしていこうと思った。」

(原文のまま)

「未来とは勝手にやってくるものだと思い込んでいた」という素直なハツとする気づき。そこから「人生というキャンバスにどんな色を塗り、どんな形を描くかは自分次第」という、なんともクリエイティブで力強い決意へとつながっていく文章に、私は言葉にできないほどの感動を覚えました。誰かに決められたルールの上をただ歩むのではなく、自分の意志で道を作り変え、切り拓いていこうとするエネルギーが、この短い作文から満ちあふれるように伝わってきたからです。

学校は、生徒たちが安心して自分の良さを出し合い、失敗を肯定しながら成長していける「創造的な学びの場」でありたいと考えています。このように、投げかけた言葉をしっかりと受け止め、今日この瞬間から前を向いて一步を踏み出そうとする生徒が身近にいることを、何よりも心強く、誇りに思います。

秋葉台中学校の生徒全員が、自分自身の「未来のデザイナー」として、仲間と共に高め合いながら、鮮やかで力強い人生を描き出していけるよう、私たち教職員も全力でその挑戦を応援し、支えてまいります。